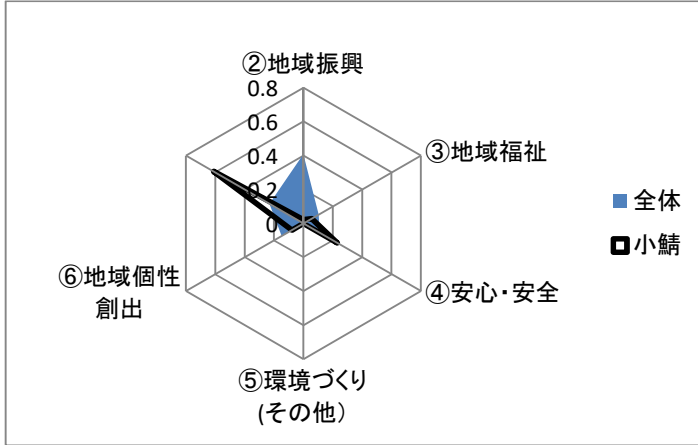


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和4年度)

■地域の情報

地域人口	4,136人	自治会数	23
世帯数	1,671世帯	自治会加入率	86.7%

※数値は、令和5年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,470,632 円
その他収入	321,429 円
交付金決算額/配分額	99.5%

各分野の決算

①協議会運営	5,505,978 円
②地域振興	51,090 円
③地域福祉	129,731 円
④安心・安全	527,456 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	178,984 円
⑥地域個性創出	1,398,822 円
決算総額	7,792,061 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい安全な地域づくりを進める。

■総括

今年度は、第4次地域づくり計画の策定作業と並行し負担の多い年となったが、負担軽減からコア会議を設置し、協議の結果を全体会に諮って進める等、プロセスをしっかりと維持し策定に至った。各部会はコロナ対策を図りながら事業を進めたが、全般に参加者等が減っていた。次期計画の遂行にあたり、協議会体制、委員(部会)構成についても刷新し、第4次を迎える準備は整った。5年度は第4次の一年目であり、全委員等の意見を集約しながら新たな進め方に挑戦する。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局費(事務局人件費、事務費、通信費、費用弁償等)
② 地域振興	ボランティア団体立ち上げに向けて、地域活性化応援
③ 地域福祉	生きがいづくり支援、高齢化社会に向けた施策、ふれあい配食サービス、小鯖敬老会、子育てサロン支援
④ 安心・安全	防火防犯対策、子どもの見守り隊の充実推進、遊び場確保支援、防犯灯設置推進補助、交通安全運動推進、小鯖自主防災訓練・研修の推進事業、災害発生防止対策、避難時必要資材充足、青色防犯パトロール
⑤ 環境づくり	花いっぱい運動推進、一斉清掃活動推進、萩往還整備、正田山の環境整備
⑥ 地域個性創出	ニュースポーツの振興、伝統行事の継承推進、社会教育協賛、小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、若者のびのび事業、さばろっち活動、竹馬世界選手権大会

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	小鯖これからプロジェクト	決算額	137,310円
①	目的	第4次地域づくり計画策定に向け、組織団体を含め地域づくりの仕組み・取組み課題の見直し「第4次地域づくり計画策定」に取り組む。		
	実施内容	第4次地域づくり計画策定に向け、各地域団体の長による策定委員会を設置し、コア会議、理事会等の段階的協議の場を設け、策定に向けた協議をした。第4次地域づくり計画の策定、併せて、要約版を作成した。		
	実施時期	4月～12月の間に委員会を5回実施した。計画は、コア会議及び理事会で決定する仕組みとし予定通り策定した。		
	参加人数	各地域団体の長等、事務局、交流センター地域担当リーダー、合計28名で構成した。		
	成果	第4次地域づくり計画策定案を12月に、細部構成、全体計画を2月までに作成し、3月中旬には要約版を印刷し、令和5年4月初旬各家庭に配布予定。		
	評価	各関係者、特に構成委員には、積極的な協議が出来、地域のまとまりを感じた。		
	今後に向けて	新たな計画の推進について、進行管理を徹底し着実に遂行していく。		
	事業名	自主防災支援事業	決算額	132,750円
②	目的	いつ発生するか予測できない自然災害に対する、地域の防災意識の向上に努め、具体的な防災訓練、避難所運営資材を充実させ各種の自主訓練に役立てる。(自主訓練の充実)		
	実施内容	コロナ禍で実施できる訓練内容を絞り込み計画した。屋外で災害を想定した街歩きを行った。安心安全部会のサロン講座に協力した。避難所運営に関連した資材補充を行なった。		
	実施時期	令和4年7月～令和5年2月		
	参加人数	地域の街歩き17人		
	成果	梅雨時期に設定し、街歩きを実施した。平成21年豪雨災害から、被害状況を説明し現地での研修となり、12年前を思い起こすきっかけになった。高齢避難者に対応した簡易ベッドを購入した。		
	評価	本年度はコロナ感染防止を図りながら、梅雨時期に併せ豪雨災害の状況を想定し、地域の街歩きを行って、防災意識として避難のタイミングやその際の注意点等を考える研修を行い成果を得た。また、広報紙紙面を活用し情報発信(我が家のタイムラインとして自主避難の注意点、避難手段、日頃の備え等)等を行った。令和5年度も引き続き地域防災力の向上と意識を高める活動を推進する。		
	今後に向けて	研修・訓練等を継続し、地区単位の防災活動も支援する。災害時の最悪、最低の状況を想定した研修に触れることで、防災意識の向上に努めていきたい。避難時に必要と思われる資材を主に補充していく。		
	事業名	高齢化社会に向けた施策	決算額	21,023円
③	目的	高齢化を迎えた現実を直視し、地域住民・家族への具体的なサポートや知識の向上、地域の助けあい等の支援が出来る環境づくり。		
	実施内容	高齢者生きがいセンターを活用したさばろっち交流広場活用のPR(高齢者同士の交流)活動、健康や生きがいを醸成するグランドゴルフの支援に取り組んだ。高齢者認知症を家族に持つ家庭向けサポート研修・講習を計画した。		
	実施時期	「さばろっち交流広場」常時開設。健康グランドゴルフ(10月16日)。認知症サポーター講習会(2月25日)開催。		
	参加人数	「さばろっち交流広場」の利用者数は約300人/年で減少傾向(里の駅にも集いの場が出来たため)。「健康グランドゴルフ」(38人)。認知症サポーター講習会17人		
	成果	グランドゴルフは大会としてでなく健康増進を目標にしたもので、参加者は楽しくプレー出来、目的を達成した。北東地域包括支援センターの支援を受け、高齢者サポート講習として、家族への研修と位置付けを行った。参加者は真剣に受講し成果を見た。		
	評価	高齢者を抱える家族に対する事業として認知症サポーター講習を北東地域包括支援センターの協力で実施した。高齢者のひきこもりを減らす取組みとして、高齢者対象のグランドゴルフ大会を計画し、約50名の参加を得た。第4次地域づくり計画に盛り込まれた「助け合いの仕組みづくり」の支援について、運営委員会を設置し具体的活動が見えてくるところへ引き上げる。		
	今後に向けて	継続して活動すると共に、関連団体等との共催や異年齢との交流が出来るよう支援していくことが必要と考える。引き続き北東地域包括支援センターが推進する「地域包括ケアシステム」とタイアップした形で検討を進め、的を得た活動を推進したい。		